

発行所 田代村公民館
電話 19番
発行責任者 湯ノ谷米吉
編集責任者 白桃 進
鹿児島市易居町2
南日本新聞社印刷局

徳が生れる

「道德」とは之をわかりやす
く云へば人道と云ふ。人間社会
に於ける、人として應むべき
正しい道である。此の道最も氣
取真面目に行ふは必ず、徳が生れ
ると云うのであります。

「天網恢々疎にして失わず」
天の目は非常にあらいたであ
るけれども、惡事は必ず露見するも
のである、と云うのだ。不遇によつて時々の財賄は、
必すそれが、わざわいとなつて現

みで窮乏を蒙る居る體な人も
易受が若し末永く繁昌する
様な面が如く未永く繁昌する
したら、道德など、どうでも長
ことになつて思いますが、世の中
はなか／＼そう甘くは出来て居る

こうした人間共通の道徳も、服れ、自からを善しめるばかりでないゆゑに、

薬と云ふ仕組の中を通せば、その職望なりに、農薬道徳となり、或は商道徳となり、或は公害道徳となり、或は公害道徳と

入れたいのであります。

農薬例を取りますならば、我人商人だけに限らず、農人にのみ例を取りましたが其の事は、此處では多数の都合で、

徳運の如き、形になって現れるのであります。が、各自正しに徳の塊遇り立場から、道を正し、踏み行へる人には自然、徳がそなつて来ますから、運命は自から開けて行へますであります。

欲だして而かもなく、商業道がても、公務員についても職人村の他の職業人についても、やはり同じと云ふべきものであります。人として人間社会に生存する虞を、人々の踏み行ふべき正しに道を「得るは捨つるにあり」と云われまふ。一角の商人となり、商業

道徳の反対は不道徳でもあります。道徳を踏みはずす不道徳者が、其の行いの如何にかかわらず、徳が失われて行きまから、つのみ、希望は達成出来て、多数の世の中の不道徳者の中に、

消防出初式行われる

一月廿日午前十時十分霽雨降る
中に消防出初式の小学校々庭に
て行われ、問國、服裝検査、操法
訓練、放水演習など規律正し、
元氣のあるいろいろの行事が行わ
れました。

根占、横濱府
消防分団
東中郡夜露団
大根占營林署
柳田若義
○新入団者
濱分団、牧原



清郎、上田健
 二、宮園 猛
 川原分司、舞
 原郁弥、鶴園
 実、
 (写真は鹽
 橋附近にお
 ける放水演
 習)
 川原分司、シブ部長、前田昌次
 東部分司、シブ部長、中野道雄
 岩下勝
 ○退団者表彰
 別府瀧、宮前進、宮園辰雄、中村
 一夫、南園勇、松田雅志、田中友
 男、小路勝、臼井利行、窪義興
 た。
 として次の方々が表彰されまし
 ○十年勤続者

1月1日、年始会が行われ33年度田代村十大ニュース、34年度村努力目標が発表された。

1月4日、田代村青年団柔道部、柔道とり始め会が、田代小学校講堂で盛大に行われた。

1月9日、田代村消防出初式が、挙行された。

1月12日、青年建設班の開講式が挙行された。

1月15日、成人式、成人者87名午後1時より、大阪府立社会事業短期大学教授、田中卓先生の道徳教育講演会があり聴講者は会場に満員であった。

尚鹿児島市より榎先生1行の剣舞も興演された。

1月18日、1面降雪のため銀世界近年まれな大雪、70年振りとかの語である、30厘以上積っていた。

1月22日、農政改良生活改善合同体験発表会県大会に 郡代表として鳥淵クサエさんが出場された。

1月31日、田代村養老振興大会が挙行された。

人は、欲心の爲に良心が麻痺して、
 慈悲心を知り乍ら、敢て不徳行爲
 を爲すことゝなり、良心はあつても、知
 らぬ、良心が、ない爲に、善惡の分
 別がつかずに、誤つて不徳行爲を
 する人との二通りがあると願ひま
 しょう。

貴族方の御協力によりまして、
 このねらいが達成出来ますならば
 我が村からは段々、うちら、ね
 と、争ひ等暗い面がなくなり、
 見違える程明るくなるであらまし
 ょう。

部落にしても、心のひやかやかに
 感じのする陽性の部落は、衰微
 しが現れ、心温まる陽性の部落は
 どことなく、明らかに発展のきざ
 しが出て居ります。こころみに
 内の各部落を、心の眼で靜かに

明くなると言ふ事は、村が陰
 性から陽性に転向すると言つて
 であります。
 陽性は活動的でありますから、
 更に一そう、村の産業も経済も教
 育も總てが活動的となり、村には
 目に見えて発展のいふきが、よま
 げえるはずであります。
 家庭も陽性な家庭は活動的で、
 発展性があります。

察して見て下さい。
 今年は景が非でも、道徳の働
 を村民の一人一人に理解して戴
 「心温まる明るい村」
 「陽性で活動的な村」
 「発展的で村民の幸福な村」
 のため、協議がたためた
 でも、出来る年したいものと
 願して止みません。

社会教育主事 小川兵一

地方選挙の期日決定

四月二十三日 県知事 県議
同月三十日 市町村長 同議員

國大半の都道府及び市町村の選挙に議會議員の任期は、本年四月から五月までの間に切れ、また、このために行う選挙の期日を有権者数きまる

法律が昨年十二月二十七日に公布されましたこの法律によりますと
基本選挙人

選挙の期日は、県知事及び県議	計
議員の分が四月二十三日に、市	9555
議員の分は四月三	6452
日に行われることになり、この	6254
ため、告示は、県知事選挙に議	12397
員とは三十九日に、県議会議員	5658
の分は四月八日に、村長	7994
	7088
	3994
	6052
	65,444
	41,732
	19,065
	255,617
	1103,777

男	分 区
4486	串 良 町
2991	東 串 良 町
2999	内 之 浦 町
5803	山 平 占
2608	高 根 占
3693	香 根 占
3275	大 根 占
1867	田 代 多
2764	佐 計
30,406	
19,847	鹿 屋 市
8,665	重 水 市
119,704	衆 議 三 区
499,506	県 合 計

みんなの力でよい選挙

区 分	男	女	計
串良町	4486	5069	9555
東串良町	2991	3541	6452
内之浦町	2999	3255	6254
高 山	5803	6594	12397
吾 平	2608	3050	5658
大 根 占	3693	4301	7994
根 占	3275	3813	7088
田 代	1867	2127	3994
佐 多	2764	3228	6052
計	30,406	35,038	65,444
鹿屋市	19,847	21,885	41,732
垂水市	8,665	10,400	19,065
衆議三区	119,704	135,913	255,617
県合 計	499,506	604,271	1103,777

明
る
い
話
題

ヘソクリ貯金で五〇〇万円
埼玉県久喜町の実例

その後御印、お盆と月續いて実し、成績もますます上り、いまは毎月、二回各戸が持ち回り世話となり、共同購入の品も野菜、せつけん、マッチ、蚕糸など日用品の大半を扱つてゐる、はじめてから三年足らず、共同購入による値引額貯金

そこで農家は、農協に営農貯金、納税準備貯金、生活費貯金、子備貯金と四つの貯金口座を作り、米代金、子牛代金、葉たばこ代金など収入のある都度、三、一、五、一の割合で預金し、原則としてこの目的以外には使用しない

この貯金を始めた頃は、一〇〇年ではあまり期間が長すぎると加へる者もわつさ三〇名程度に過ぎなかつたのですが、一日一円のお金は子供のおやつ代にも足りない小額のことで、どの家庭にも比較的の容易にでき、良い思つてきたと

うち一三万円は部落名義の定期として積み立て、部
落の人の病癒、台所の改修

それ他不時の出費に備えてい
す。
其家を豊かにする
合に於て貯金するのは容易にで
す。
三、一、五、一という簡単な割
りだの感謝に満ちた笑顔が浮ん
でる。そのまゝ、
「さういふ話です。」

2、道路、水
環境につと

要綱さきまる

3、奉仕精神の涵養につとめよう。

4、他人に迷惑をかけないようにしよう。

5、相互扶助の精神を養いましょう。

1、人の不幸には同情し、喜びは共にしましょう。

2、隣人互いに助け合い、励まし合ひましょう。

兄弟 なかよい、家のなか
四つとや 怒には目がない、きりが
ない
押えて、こらえて世をわたれ
五つとや いつでも、人から呼ばれたら
ハリーと答えて いそいそと
六つとや 向う三軒 隣降り
中よく暮せよ、世はなごみ

しよう。

4、他人に

要綱

五、相互扶助の精神を養ひましょう。

う。もつと工夫して仕事を見つけて働きましょう。

六、誠実のある仕事をしましょう。

七、報恩感謝の念を昂揚しましょう。

八、神仏礼拝を励行しましょう。

九、郷土・国を愛しましょう。

一〇、人に対する感謝の念を昂揚しましょう。

一一、物を愛護し、しましう。

一二、公徳心を顕現しましょう。

一三、公共防衛の精神を養いましょう。

にしましう。

一、人の不幸には同情し、喜びは共にしましう。

二、隣人互いに助け合い、助し合ひまじう。

三、青少年を温心で、導き育みまじう。

四、各種団体の活動を盛んにしましう。

家族和合数え歌

一つや 人は笑顔が第一
朝から陽気で、きげんよく

二つとや 踏まれた足にも、花が咲く

五つとや いつでも、人から呼ばれたら

ハッピーと答えて いそいそと

六つとや 向う三軒 両隣り仲よく暮せよ、世はなごけ

七つとや 泣き虫、毛虫は こまゆ虫

八つとや ぐにこえす縁 鯛をつる

九つとや 優しい人形は 誰も好く

十つとや 心と心と結びあふ

十一つとや 家族は お国の たかたか

十二つとや 遠い 神代音の音から

